



鏡開き(かがみびらき)・鏡割り(かがみわり)とは、[正月](#)に[神](#)([年神](#))や[仏](#)に供えた[鏡餅](#)を下げ、[雑煮](#)や[汁粉](#)で食べる行事である。年中行事のひとつ。

武家では、[鎧](#)などの[具足](#)に供えた具足餅を下げて雑煮にして食し、これを「刃柄(はつか)」を祝うといった。この武家社会の風習が一般化したものである。また、女性が[鏡台](#)に供えた鏡餅を開く事を「初顔」を祝うといい、二十日(はつか)にける[縁語](#)とした。

刃物で切るのは[切腹](#)を連想させるので手や木槌で割り、「切る」「割る」という言葉を避けて「開く」という言葉を使用する(「開き」は「割り」の[忌み言葉](#))。鏡は円満を、開くは末広がりを意味する。また、鏡餅を食すことを「歯固め」という。これは、硬いものを食べ、[歯](#)を丈夫にして、年神様に長寿を祈るためという。

元々は松の内が終わる[小正月](#)([1月15日](#)([旧暦](#)))後の[1月20日](#)([旧暦](#))に行われていたが、[徳川家光](#)が亡くなったのが[慶安](#)4年([1651年](#))[4月20日](#)([旧暦](#))であったため、関東では1月20日を[忌日](#)として避け、後に松の内^[1]後の[1月11日](#)([旧暦](#))とされた。ゆえに[グレゴリオ暦](#)([新暦](#))になった現在も松の内が[1月7日](#)の地方では[1月11日](#)、松の内が[1月15日](#)の地方では[1月20日](#)([二十日正月](#))、京都では[1月4日](#)に行われる。

祝宴などで菰(こも)を巻き付けた酒樽(菰樽という)の蓋を木槌で割って開封することも鏡開きという。これは、酒屋では酒樽の上蓋のことを鏡と呼んでいたことに由来する ^[2]。また、この場合は鏡抜きと呼ぶこともあり、「鏡開き」と呼ぶのは誤りだという説もある ^[3]。